

## 53 障害者の衣服および履物のニーズと工夫の実態

病院看護部 泉谷義明 栗生田友子 研究所 小野栄一 筒井澄栄

【はじめに】研究所と看護部は、平成 23 年度から障害者の衣服を手がけ、その成果の一環として国リハコレクションを開催し、障害者のニーズに応え、QOL につなげられることをめざしてきた。ここでは、その障害者ニーズに応えるため行ったニーズの実態調査を報告する。

【研究方法】衣服の実態は障害者団体に、履物の実態は自立支援局に入所または通所する障害者を対象とし、平成 26 年から 27 年にかけて郵送または聞き取りによりデータ収集した。

### 1. 衣服調査（対象 車椅子障害者 429 名 質問紙調査）の結果概要

- 1) 身体的変化の自覚は「下腹部」「肩まわり」「腕まわり」「皮膚」の変化だった。
- 2) 車椅子経験により、サイズの大きめなものを選ぶことや、機能性を考慮して衣服選定をする機会が増えており、既制服のリフォームは、「ウエスト」「股上」「ファスナーやスナップの追加」「袖の長さ」「上着の丈」「袖口」に行っていた。
- 3) 機能性に関して、「尿の処理」「着せてもらいやすい」「車椅子の用途に合う」で、20% 以上の方が重視しており、それらが重要な衣服の選定条件となっていた。
- 4) おしゃれへの関心は低くはなく、出かけるときは約 37% の人が衣服への関心を持っているが、一方で最近良く着る服装として「ジャージ」を着用している傾向もあった。
- 5) ネット、通販販売利用が増えており、自宅で選べ、試着できることを希望していた。

### 2. 履物調査（対象 頸髄損傷者 23 名 聞き取り調査）の結果概要

- 1) 対象には、陥入爪・白癬・浮腫・発赤などがあるものが 9 名含まれた。
- 2) 持っている靴の種類は、革靴、サンダル、スニーカーで、スニーカーがやや多かった。
- 3) デザインへのこだわりが高く、「まあまあ満足」の回答が多かった。
- 4) 履物に求める条件は、色、デザイン、素材、洋服とコーディネートのしやすさ、メーカー・ブランド品、履き心地の順に多かった。
- 5) 履き心地として、靴底の滑りにくさ、足のサイズ・形、指があたらない、横幅がきつくない、甲がきつくない、踵が脱げない、脱ぎ履きしやすさを重要視していた。
- 6) 「心地よさ」と「服との相性」、「値段」と「デザイン」、「値段」と「麻痺」に関連を認めた。

【考察】衣服の現状は、日常的にはジャージの使用者も少なくなかった。衣服では「尿の処理」「着せてもらいやすい」「車椅子の用途に合う」こと、履物では、「脱ぎ履きしやすさ」「豊富なデザイン・サイズ」「自分で取り易い位置」がニーズとして上がった。とくに靴は足病変につながるような形状や、素材の開発が重要であり、衣服・履物ともに、自宅でネットで自由選べるような入手の工夫が今後期待されており、その場合でも、試着できることと、着用後の足のチェックができることも重要と考えられた。

衣服や履き物の開発により、障害者の活動しやすさに寄与できる開発を継続する必要がある。

